

《体験から学ぶ》

2学期に入り、各学年それぞれ体験学習に取り組んでいます。9月4日(木)には2年生が海遊館に行きました。大きな水槽の中で悠々と泳ぐジンベエザメを見た感動を後日のハニーFMの電話取材で語っていました。9日(火)には4年生が青少年科学館と人と防災未来センターの見学に行きました。プラネタリウムを通して宇宙の世界に興味を抱き、震災の映画や展示を見ることにより、命の大切さや防災について考えました。19日(金)から6年生は修学旅行に行きました。資料館で熱心にメモを取る姿や外国の方と英語であいさつする姿から、修学旅行に向けた6年生の思いが伝わってきました。天候にも恵まれ、充実した学びが積めた2日間でした。5年生は22日(月)から4泊5日の自然学校に行きました。ハチ高原の自然の中で、非日常の生活を5日間体験しました。出発前に「自然旅行ではなく、自然学校に行くんだよ」「うまくいかないことのほうが多いけど、ピンチはチャンス。」と話をしました。活動を進めるなかで、寂しくて家に帰りたくなったり、イライラして友達と衝突したり、トラブルは起こりましたが、誰一人病院に搬送することもなく予定通り最後まで乗り切ることができました。ゲームやスマホがなく、家族と離れて生活する経験は成長の良い機会であり、自然学校の本当の値打ちがここにあるのだと改めて実感できました。

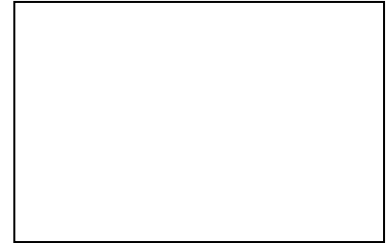
このように、学校外での学習は教室では学べない貴重な体験の場です。自分だけの世界で生きていくことはできず、常に他者との関わりがあります。特に宿泊学習では、食事マナーや生活のリズム、自分の持ち物や時間の管理など、家庭での様子がよくわかります。異なる価値観をもつ友達と一緒に生活することは、それぞれの家庭における価値観をすり合わせながら、よりよい行動の仕方を学ぶことにつながる貴重な場です。そこで学んだことをこれからの日常生活に生かしてくれることを期待しています。

このように、実際に見たり、活動したりして、実物に触れることは、タブレットやスマホのネット情報では味わうことのできない貴重な体験になります。例えば、アゲハチョウの一生は動画ならわずか10分で分かりますが、あおむしからさなぎ、羽化まで観察すると1か月ほどかかります。その間、毎日のえさや霧吹き、大きくなる様子が気になり、放蝶の瞬間には大きな歓声が上がります。その感動を大切にしてほしいと思います。これは動画では味わえない感動と経験です。おしべやめしべといった花の作りや昆虫の体のつくりは、図鑑や動画で確認できますが、実物を見ることで「命」を感じることができます。

簡単なことよりも、豊かな成長のために、時間がかかっても本物に触れる、実際に活動する体験を数多く積んでほしいと願っています。

《転んだからこそ立ち上がることを覚える》

「転ばぬ先の杖」という言葉があります。失敗しないように前もって準備をしておくということわざです。似たような意味に「備えあれば憂いなし」があります。では、本当に転ばないことが子どもにとっていいことなのでしょうか？準備の大切さを説くことや子ども自身が杖を用意することは必要です。無計画や行き当たりばったりでは物事はうまく進みません。大事なことは、子どもたちが自分で見通しを持ち、用意をして、転ばないようにすることなのです。また、それでも転んでしまったときに自力で立ち上がることもなのです。大人ができることは、それを見守ること、うまくいかなかったときに子どもがどうするのか見通しを立てておくことだと思います。近年、わが子を心配するあまり、周りの大人が予防線をはってしまう様子をよく見かけます。子どもが自力で立ち上がろうとしているのに、大人が手を出してしまうことがあります。「学校で友達とけんかした」「仲良しの子と同じ班になれなかった」「係決めて希望の係になれなかった」など、学校では自分の思い通りにいかないことが多々あります。その時にどう立ち上がるのかは、社会に出ていくうえで大きな力になります。さなぎが羽化しようとしているときに、それを手伝う人はいません。子どもたちに立ち上がる力をつけることの大切さを周りの大人が再認識し、支援の在り方を考えていくことを大切にしていきたいものです。



【自分たちで作った小屋で先生と】



【平和への祈り、不戦の誓い】